

国からの回答（帰還について）

Q120. 5号機、6号機の廃炉が決まらない段階で、本当に住民は戻れるのか。また事故があれば避難させられるのではないかと。町民に戻ってもらうならば、廃炉の時期を明確にしてもらいたい。

（資源エネルギー庁 賠償担当）

まだ帰れる状態ではない。将来、避難指示解除するときには、5・6号機も含めて、皆様が安全に暮らせる状態になっているかどうかを判断することになると考えられる。

（東京電力）

現在の5・6号機は、震災当時、定期検査中だった。一部の電源が生き残っていたので、その電源で冷温停止させることができた。現在も冷温停止状態を継続、維持している。当時壊れてしまった設備を仮復旧して冷温停止させている。これをしっかりとした冷却設備に作り直す。現在のところ、安定しているので、それを維持し、冷却し続けるよう努力する。廃炉については現段階では白紙。

Q121. 双葉町にいつ戻れるのかが分からないから、賠償の説明だけ聞いてもよく分からない。いつ戻れるのが明確にしてほしい。

（資源エネルギー庁 賠償担当）

こちらについては、他の住民説明会でもご質問をいただいております。本当に申し訳ない。インフラ復旧は復興庁を中心に、また除染については環境省を中心に取り組んで、この先の見通しというようなものを見つけようと考えている。既に復興庁あるいは環境省に伝えているが、改めて、双葉町はこの先どうなるのかといったところを見えるような形にするということについて回答を求めていきたい。

Q122. 3月に公表された放射線量で、日本一放射線量が高いのは双葉町の山田地区だった。年間450mSvであり、180年帰れないことになる。5, 6年の問題ではない。補償をどうするのか。

（資源エネルギー庁 賠償担当）

いつ帰れるかのご不安、大変申し訳なく思っている。精神的損害に関する賠償については避難指示が解除された場合、相当期間継続するとされているが、どのくらいの期間継続するのかというのは、今後の状況に応じて判断することになっている。線量が高く長期にわたって帰れない状況もあるだろうと思うが、そういった場所の賠償のあり方は、一つの大きな課題であるのでしっかりと検討していきたい。